



さくら花

笑顔満開さわやか角小

重点：4つのあ

- あいつ ●あんぜん
- あい読書 ●あとしまつ

13

平成29年9月6日（水）

安全で楽しいお祭りに



9月1日 お祭り丁内児童会
子どもたちも緊張しながらお話をしっかり聞いていました。

今年も、多くの子供たちが楽しみにしている「角館のおまつり」が7日（木）から3日間始まります。9月1日（金）には、各丁内曳山責任者や少年係の方においでいただき、曳山別丁内子ども会を開催いたしました。丁内の子どもたちの顔合わせと、責任者や少年係から事前の指導をしていただきました。



学校としても、このお祭りは、子どもたちに「ふるさとへの愛着と誇りをもたせる」ための体験学習の絶好の機会ととらえています。責任者を先頭に、丁内の大人たち、若者たちの祭りにかける意気込みや取り組みの様子から、子どもたちは将来の祭りの担い手として、大人たちをあこがれや手本として、心に刻む体験をすることと期待しています。今年も、「角館のお祭り保存継承と地域活性化実行委員会」からいただいた冊子やパンフレットを利用して事前学習も行っています。

なお、お祭りには危険や誘惑もあります。事故にあわず、有意義な3日間にするために、角館小学校児童としてルールやマナーをしっかり守ってほしいと思います。学校でも、9月1日付けで配布しております「楽しく有意義なお祭りをするために」の内容について時間をとって指導しておりますが、保護者の皆様にもぜひご覧いただき、ご協力を

よろしくお願いいたします。この祭り期間の3日間は、本校職員が巡回指導いたします。8日と9日の午後は立町ポケットパークに角館小職員詰所を設け緊急事態に備えます。また、お祭りに参加しないお子さんもおりますので、連休の過ごし方についてご家庭でのご指導も

よろしくお願いいたします。また、お祭りに参加しないお子さんもおりますので、連休の過ごし方についてご家庭でのご指導も

よろしくお願いいたします。なお、10日午前中には、ねんりんピック・ウォークラリーの競技が角館町内で開催されます。全国から来ている選手のみなさんに声援をお願いいたします。

なお、10日午前中には、ねんりんピック・ウォークラリーの競技が角館町内で開催されます。全国から来ている選手のみなさんに声援をお願いいたします。



お祭りの約束（抜粋）

- ・丁内の責任者、少年係やタスキをかけた大人のいうことをよく聞く。
- ・上級生は下級生の面倒をみる。
- ・曳山ではロープの先の方につく。横や後ろには絶対につかない。
- ・引山についているときは、半纏はんてんをぬがない。（半纏が丁内の目印です）
- ・他の丁内の曳山にはつかない。一人で曳山から離れて行動しない。
- ・夜は、低学年は10時をめぐり、高学年は11時をめぐり（保護者の方に迎えに来てもらう）、それ以降は保護者同伴とする。
- ・ゴミの投げ捨てはしない。無駄遣いはしない。
- ・何かあったら、一番近くの人に伝える。 など

角館祭りやま行事 (ユネスコ無形文化遺産・国指定重要無形民族文化財) について

角館の祭りやま行事は、平成3年に国指定重要無形民俗文化財に、平成28年にはユネスコ文化遺産に指定されています。

この祭りは、角館の鎮守(その土地を守る神仏)である神明社と産土(うぶすな)(自分たちのふるさと)の神仏)である薬師堂の祭りで、7日は神明社の宵祭り、8日は神明社の本祭りと薬師堂の宵祭り、9日は薬師堂の本祭りです。

この祭りの始まりは定かではありませんが、記録によると今から350年程前の江戸時代にあたる元禄7年(1694年)とされています。

お祭りのやまには「曳山」と「置山」があります。「曳山」は、丁内に電線が張り巡らされる明治期以前は、現在の置山のように高さ10メートルほどの担いで動く担ぎ山でした。現在のような曳山になったのは、大正2年(1913年)からだといわれています。担ぎ山の名残として、現在でも曳山にある前後左右の最も太い木の部分を「担木(たんぎ)」と呼んでいます。

曳山の見所は、「人形」「お囃子と踊り子」そして「曳き回し」です。

「人形」は、正面側に配置される武者人形、後ろ側に配置される「送り人形(おくりっこ)」があります。武者人形は、歌舞伎の場面や歴史上の人物を用い、おくりっこは、滑稽な出で立ちをしたものが多いようです。

曳山の中央には「もっこ」と呼ばれるところがあり、豊作をもたらすという農耕の神「山の神」をお迎えする場所として黒い布で山が表現されています。

「お囃子」のことを「飾山囃子(おやまばやし)」といい、昭和49年に国の無形文化財に指定されています。囃子は曳山にとってきわめて重要な役割をもち、囃子が奏でられない限り曳山を運行することはできません。いったん運行がはじまると丁内に帰るまで囃子が止まることは、夜あがりといって食事を一斉にとるために休憩するとき以外はありません。曲は、曳山の進行、神社への奉納、民謡を編曲したものの3つからなります。曳山の運行のものとして「上り山、道中囃子(下り山)、下がり藤」、奉納のものとしては「拳囃子、二本竹」、民謡からは「秋田甚句、秋田おばこ、秋田音頭、おいとこ、お山コ、かまやせ」などがあります。「踊り子」は、囃子に合わせて手踊りを披露することで祭りに華(はな)を添えます。

この祭りの大きな特色は、丁内運行(「曳き回し」)中の「交渉」と「激突(山ぶっつけ)」です。曳山と曳山が向かい合うと、黄色いタスキをかけた「交渉員」によって話し合い(交渉)が行われます。原則として上り山(これから参拝、上覧に向かう曳山、他丁内に入って張り番に向かう曳山など)



に優先権があり、優先権がある曳山に道を譲り、曳山をよせることとなります。しかし、時にはこの優先権をめぐり、折り合いがつかず交渉が決裂することがあります。それが「激突(山ぶっつけ)」です。丁内の威信をかけて、激突は数時間、朝方まで続くこともあります。ただ、この祭りは「山ぶっつけ」をするところに本義があるわけではありません。自分の丁内につつがなく無事戻ることを評価していたのです。

現在は、祭典中の8日に、観光用の「激突(山ぶっつけ)」が行われ、今年は7カ所で行われます。

※市教育委員会が作成した「ふるさと仙北学」の記載内容を参考にしています。